

第37回読売書法展

# 役員作品鑑賞ガイド



ごあいさつ

読売書法展は伝統と古典に基づいた書の継承と発展をめざして昭和五十九年（一九八四年）に始まりました。出品約一万四千点、東京展、関西展、九州展の三会場からのスタートでしたが、今回の第三十七回展では、約二万点の力作が集まり、全国八会場（東京、関西、中国、中部、四国、東北、北海道、九州各展）を巡回します。

読売書法会の発足以降、書壇を取り巻く環境は大きく変わってきましたが、「本格的輝き」を標榜する読売書法展は方向性を見失わず、着実に歩みを進め、今日では国内最大規模の公募展に成長しました。

また、昨年は新型コロナウイルス感染症の流行により、発足以降初めてとなる開催延期の事態に見舞われましたが、関係各位の尽力と熱意により本年の開催に至りました。

読売書法会の役員書家は、古典を考証しながら、新たな可能性を追求し、常に自己研鑽を怠りません。今日なお止むところを知らない役員書家の旺盛な創作活動は、書法会の根幹を支えるだけでなく、現代書道芸術の発展に多大な影響を与え続けています。

国内書壇の最高峰を形成する最高幹部会議メンバー（最高顧問、顧問、常任総務）の作品ガイドを作成しました。作者自身による制作意図を紹介しておりますので、ご鑑賞の際の手引きとしてご活用いただければ幸いです。

令和三年八月

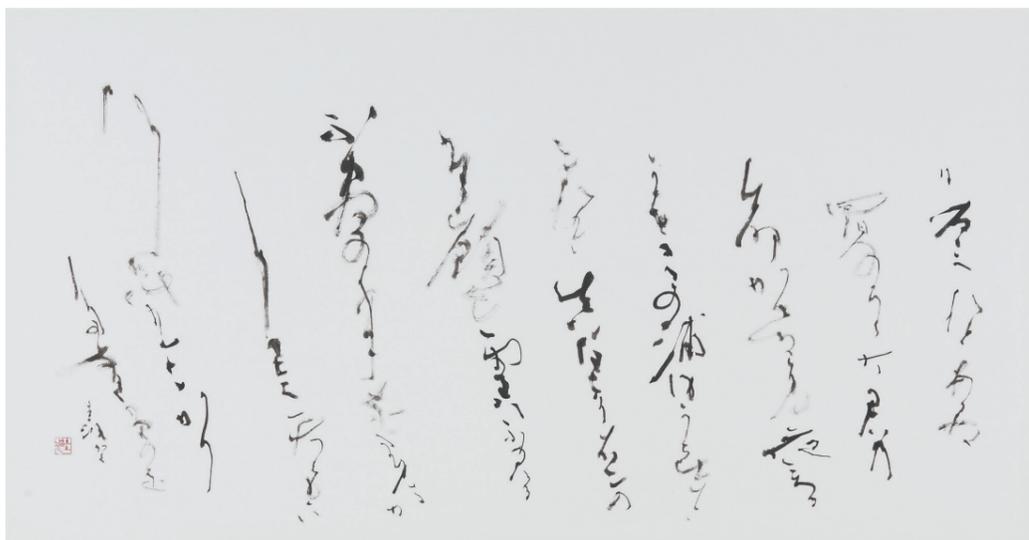
読売新聞社  
読売書法会



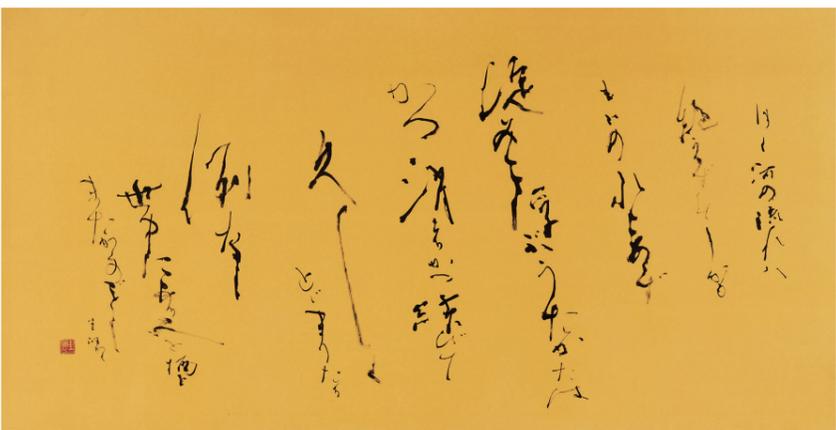
最高顧問  
井茂

圭洞

上…「富士三景」(『万葉集』)  
下…「無常」(鴨長明『方丈記』)



書美の醍醐味、リズムに乗った  
運筆と間の美との調和を鑑賞し  
て頂ければ幸いです。

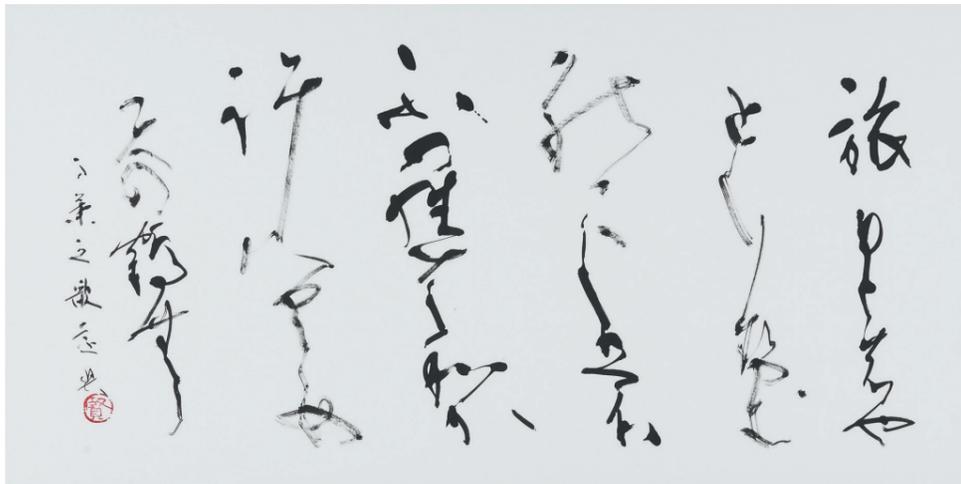


文字を書いていない空白の  
部分(要白)に躍動と静寂  
の美を味わって頂ければこ  
の上もない喜びです。

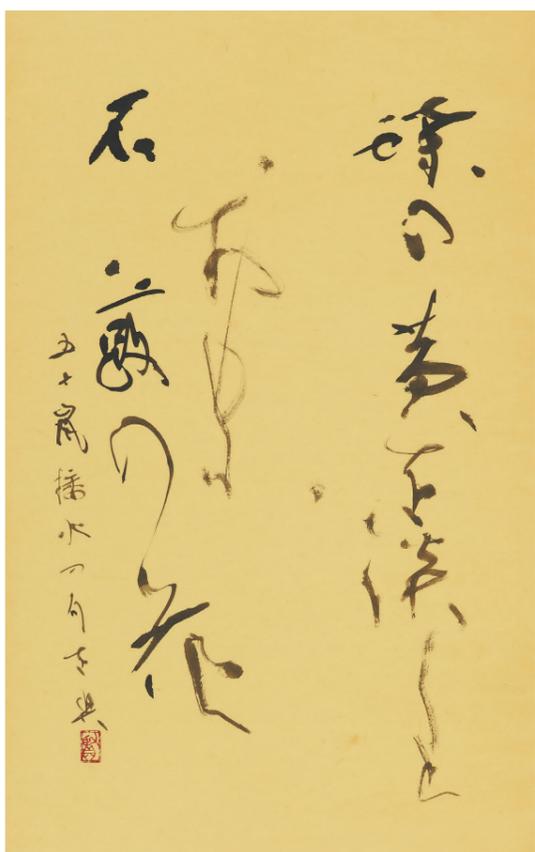
最高顧問 黒田 賢一



上：「天の鶴群」(『万葉集』)  
下：「石落の花」(五十嵐播水)



「かな」のもつ流麗さを保ちつつ、  
大胆な動きを加味し、充実した線  
での大字作品となるようお願いを込  
めて。

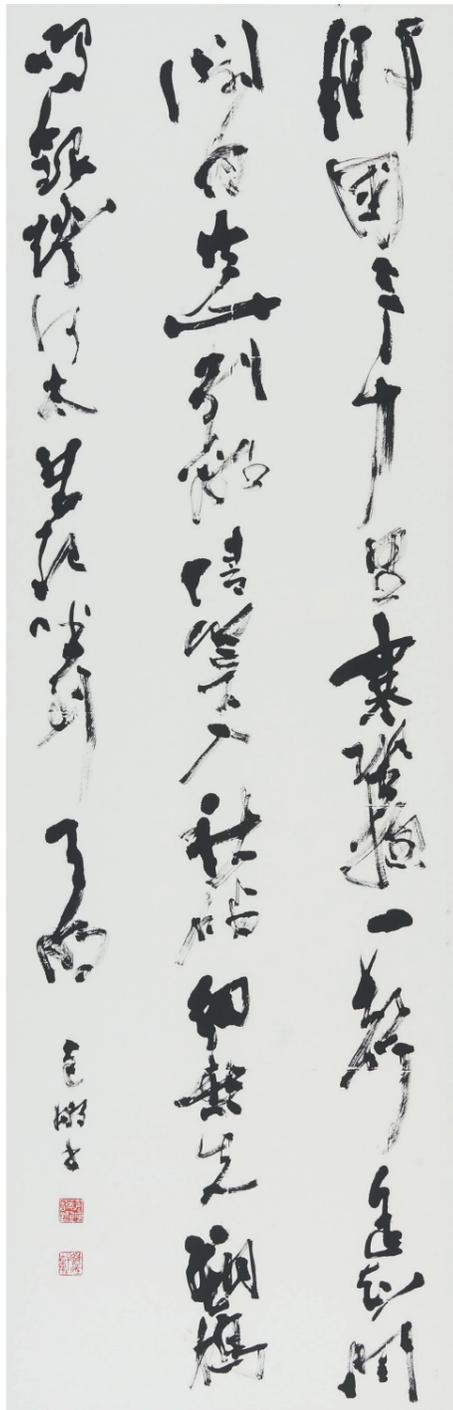


簡素で爽やかで何かほのぼのとした雰囲気が出せればとの想いで書作した。

最高顧問 尾崎 邑鵬



「聞蛩」(徐倬)



中国清代の人徐倬の聞蛩を書いた。例年楷書大字を書いていたが本年は行草体とし滲みを加え掠れも多用してみた。

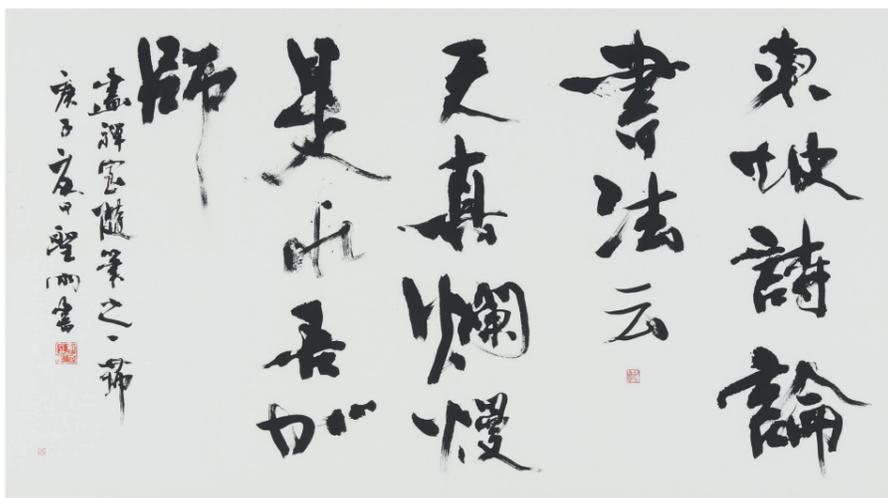


最高顧問  
高木 聖雨  
右：「武猛」(『後漢書』)  
左：「西禅室随筆の二節」(董其昌『西禅室随筆』)



書の表現は両極の美に  
尽きると思う。今作は  
極端な大小、潤濁、粗  
密を大きな課題とし、  
自然に表出する線の妙  
味があいまって仕上げ  
たものである。

二群に分けて書作し、  
前半を漢字、後半を調  
和体とした。二群の調  
和に苦心した。昨年  
のコロナ禍の中の作。



顧問 梅原 清山



右：「盪意」(『漢書』)  
左：「いろは歌」(坂本百次郎)



心を清くするという意味。大字作品は強い表現にしたいので北魏風に書作した。

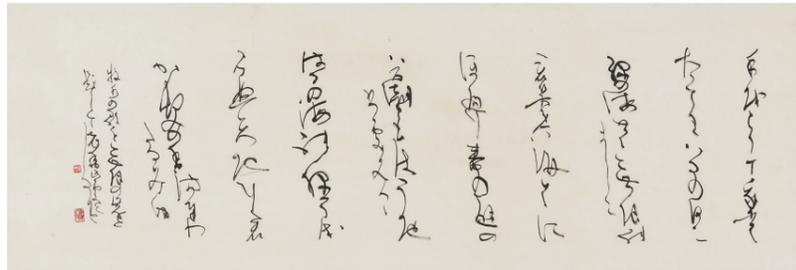
「いろは歌」として、うまく言い表わし、字柄のよい漢字を使っている、書作品として採用した。



顧問 榎倉 香邨

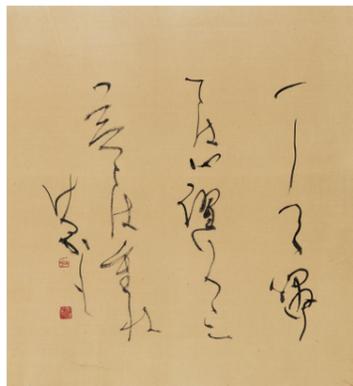


上：「無限の岸」(若山牧水)  
下：「一しづく」(若山牧水)



人を愛する事で深い生命力が宿る。牧水が小夜子と愛を交わした根本海岸での歌です。この激しい、純粋な生命感を書きたいと願いました。

牧水は一日に一升の酒を飲んでた酒豪で知られます。たびたび断酒を試みるのですが、ついに、牧水の人柄が偲ばれます。



顧問 新井 光風

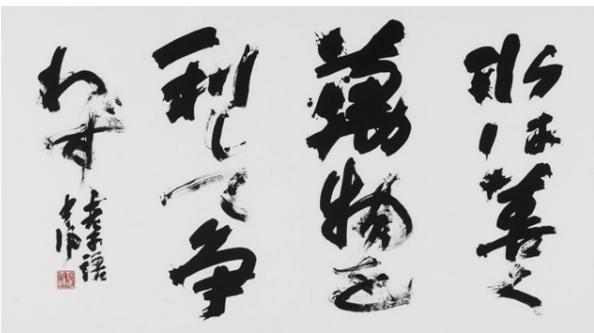


上：「益謙」(『易経』謙卦)  
下：「老子語」(『老子』易性第八)



私が常に考えていることは、線の命と存在感。制作では命の躍動感を追求した。

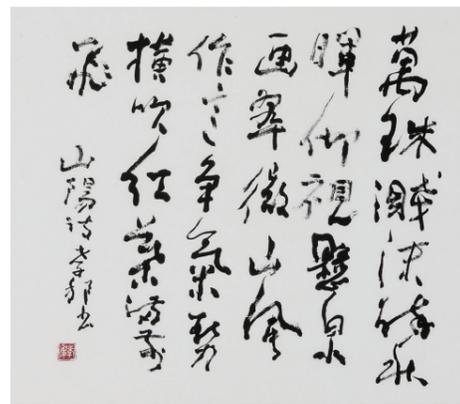
令和の今に生きる今の私の命をかたちとして紙面に定着させたつもりである。見て下さる人に少しでも力になれば、これにまさる喜びはない。



顧問 津金 孝邦

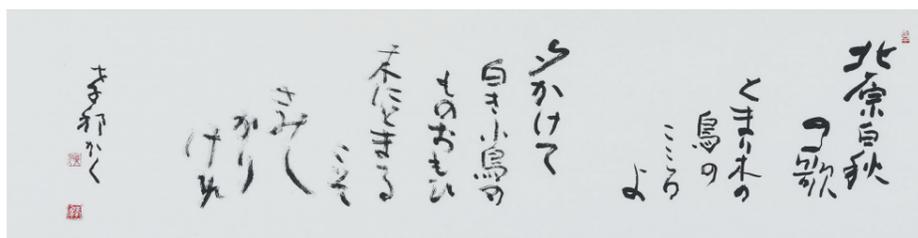


上：「山陽の詩」(頼山陽)  
下：「白秋の歌」(北原白秋)



頼山陽の詩「観箕面滝」一詩を四角の紙面に渾然と収めた。墨の濃淡の変化に留意した。

白秋の歌を詞書から書き、歌全体を表現した。歌の部分は、詞書を含め墨の濃淡に留意して制作した。



顧問 杭迫 柏樹



右：「豊麗胆笑」(村上華岳)  
左：「辿り来て未だ山麓」(升田幸三)



村上華岳画伯曰く、一流の条件は、豊かで麗しく、胆がすわって、までは努力すれば可能だが、笑(ユーモア)は天性のもの。しかし、これがなくては...

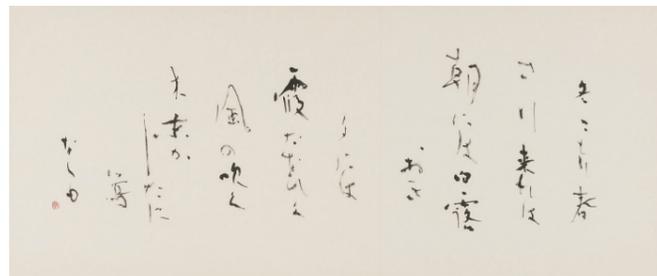
米寿を迎え、いよいよ身にしてみる語。よし、新しい人生に向って...



顧問 池田 桂鳳

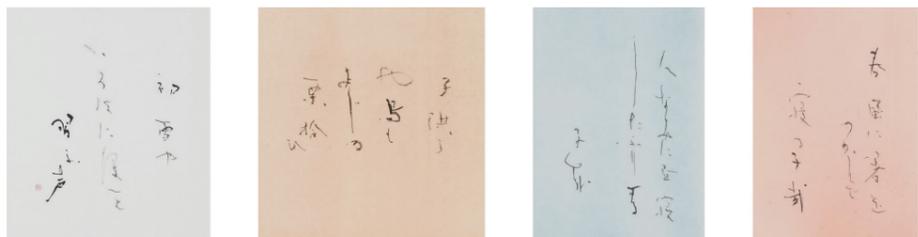


上：「冬ごもり」(『万葉集』)  
下：「春風」(小林一茶)



変体仮名を使わずに抒情的な作品をと意図しました。

この頃子供のころがよく思い出されます。一茶の子供を詠んだ句を集めて素朴な世界を表現してみました。



常任総務 星 弘道

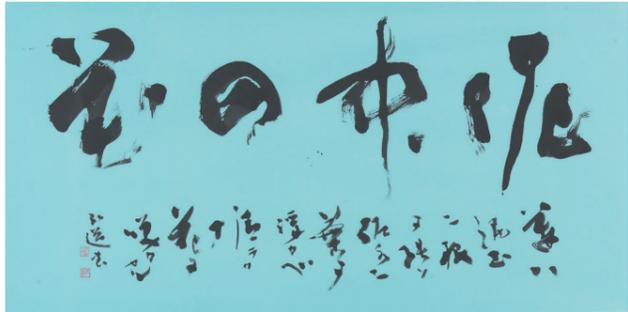


右：「樹徳」(庾信)  
左：「泥中の花」(『法華経』如蓮華在水より自作)



コロナが蔓延し人類は現状だけで対応しているが、自然とのバランスを崩さぬことが最重要と考えて書いた。

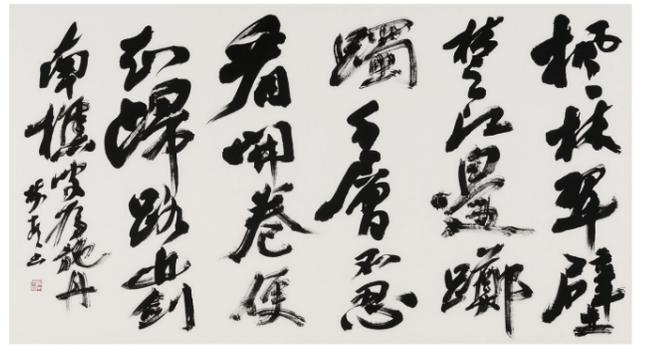
泥土の中でも清らかな花を咲かせる蓮は、どんな環境にも負けない精神を教えてくれる。



顧問 樽本 樹邨

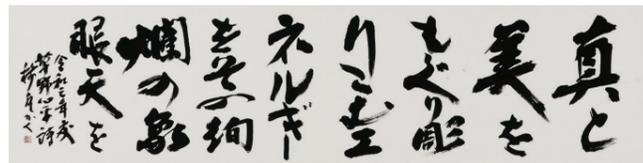


上：「蘇東坡詩」(蘇軾)  
下：「その絢爛の象眼天を」(草野心平)



調和体の作品も漢字作品と同じく健康的で弾力のある、印象的なイメージを与えるものにしたかった。

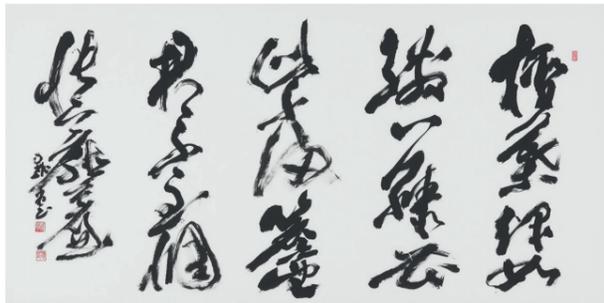
特に墨量の配分から起こる潤渴の効果を大きなねらいとし、あくまでも気満の世界の再現をとり入れて試みた。



常任総務 真神 巍堂

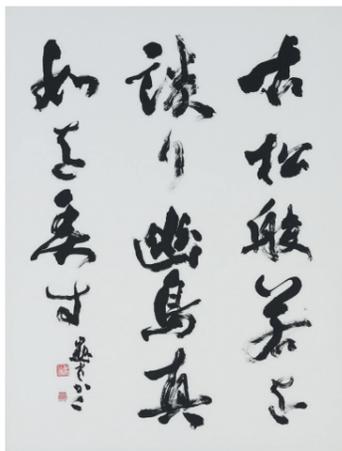


右：「藤花」(朱彝尊)  
左：「古松幽鳥」(『禅語』人天眼目・晦庵智昭)



詩文の内容にこだわらず、字面を中心に選文するのが常ですが、めずらしく孫の誕生に因んで「藤花」を軸に狂草風に一気に呵成に書きあげました。

漢字作品に対して禅語の意をじっくり味わい、奇をてらうことなく静かに書きました。



常任総務 土橋 靖子

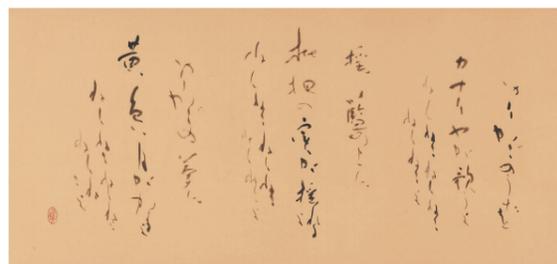


右：「松虫」(『拾遺愚草』)  
左：「揺籃のうた」(北原白秋)



紙面を俯瞰しつつ、大胆なちらしと流れを表現したく思いました。生動感ある書にあこがれています。

書くたびに表情が変わりました。心の動きがそのまま伝わるようで、一枚一枚気持ちをこめて書くことを心がけました。



「第37回読売書法展」会期・会場

〔東京展〕

《第1会場》国立新美術館

8月20日(金)～29日(日) ※24日(火) 休館

《第2会場》東京都美術館

8月23日(月)～29日(日)

●表彰式・祝賀懇親会 8月28日(土)

ザ・プリンス パークタワー東京

〔関西展〕 9月8日(水)～12日(日)

《第1会場》京都市京セラ美術館

《第2会場》京都市勧業館「みやこめっせ」

●表彰式・祝賀懇親会 9月11日(土)

ホテルグランヴィア京都

〔中国展〕 9月24日(金)～26日(日)

《会場》広島県立ふくやま産業交流館「ビッグ・ローズ」

●表彰式・祝賀懇親会 9月24日(金)

福山ニューキャッスルホテル

〔中部展〕 9月28日(火)～10月3日(日) ※第2会場は9月29日開幕

《第1会場》愛知県美術館ギャラリー

《第2会場》愛知県産業労働センター「ウイंकあいち」

●表彰式・祝賀懇親会 10月3日(日)

名古屋観光ホテル

〔四国展〕 10月22日(金)～24日(日)

《会場》サンメッセ香川

●表彰式・祝賀懇親会 10月24日(日)

JRホテルクレメント高松

〔東北展〕 10月27日(水)～31日(日)

《第1会場》山形美術館

《第2会場》山形県芸文美術館

●表彰式・祝賀懇親会 10月27日(水)

山形グランドホテル

〔北海道展〕 11月10日(水)～14日(日)

《会場》札幌市民ギャラリー

●表彰式・祝賀懇親会 11月13日(土)

札幌パークホテル

〔九州展〕 12月10日(金)～12日(日)

《会場》福岡国際センター

●表彰式・祝賀懇親会 12月12日(日)

ホテルオークラ福岡

※新型コロナウイルス感染症拡大の状況に鑑み、7月30日の臨時執行役員会で、すべての表彰式・祝賀懇親会は中止されることが決まりました。

©2021 読売新聞社 読売書法会

本ガイドの制作にあたりましては、日本文藝家協会(許諾番号S20210630Y)の許諾を得ています。

著作権に関しては手続きを取っておりますが、お気づきの点があれば読売書法会事務局までお知らせください。